

# 所蔵資料のご案内

2019.7

## 古文書などの歴史資料

主に【新発田市立図書館 郷土資料 蔵書目録】に掲載されている資料です。

### ●目録 第1集 昭和34年(1959)発行

郷土資料1592部について掲載。その大半は、旧新発田藩に関する記録であり、その他には絵図・地図・写真・書画・拓本・書籍など。

### ●目録 第2集 昭和49年(1974)発行

新発田藩溝口氏の近世資料(文書・絵図等)を収録。

○蔵書目録は、2階サービスカウンターにて閲覧できます。  
また、当館ホームページの「デジタルアーカイブ」ボタンから  
も検索でき、一部のデジタル化された資料の閲覧もできます。  
(館内アーカイブズコーナーの端末からも閲覧できます)



○資料の閲覧を希望の場合は、カウンターにて「資料閲覧票」に記入の上、お申込みください。一部閲覧不可の資料もあります。

※古文書閲覧サービスの受付時間 9:00-15:30

○湿度、温度を一定に管理している3階の特別収蔵庫(一般利用者立入禁止)にて保管しているため、職員が出納いたします。

## 図書資料および視聴覚資料〔最終ページに配架図を掲載しています〕

平成28年(2016)7月に、新発田市立図書館が「新発田市立中央図書館」として移転開館したことに伴い、それまでの市立図書館の所蔵資料を、一般的な「中央図書館」と、歴史や人物、郷土に関連した資料を中心とした「歴史図書館」に分けたものです。

さらに特色ある貴重な資料を、個人からまとめて寄贈いただいたものは、【文庫】資料として配架しています。(各文庫の詳細は次ページをご覧ください)

○このシールのある資料は、貴重資料のため館内閲覧のみとなります。

○図書資料および視聴覚資料は、2階開架、3階閉架(一般利用者立入禁止)に配架しています。3階閉架の資料は、職員が出納します。

○蔵書の詳細は、当館ホームページからも検索、確認できます。

新発田市立歴史図書館/ <http://www.histlib-shibata.jp/>

QRコード



## 各文庫・資料の解説

書架 1～4

### 関文庫

※寄贈者の意向により、独自の連番〔6桁〕順に配架しています。

関雅之氏は、新発田高校などで教壇に立つとともに、新潟県教育庁で文化行政に携わり、多くの後進を育成しました。新潟県史や自治体史の編纂・執筆を行い、専門誌に多くの論文を執筆するなど、考古学の研究を推進しました。

新潟県内発掘調査報告書は、当初のころのものから揃っており、関氏が主として研究した弥生時代の研究史に残る貴重な報告書や著作物もこの文庫に含まれています。

関氏の書籍は考古学を中心としますが、歴史学、民俗学、文学にも視野が広がっており、若いひとたちからも役立てていただきたいとして寄贈されたものです。

書架 11～14.18～20

### 帆川文庫

別置記号 Zイ

帆川喜久男氏は、幼少のころから自家の土蔵の中にあつた古書を読んでいたといひます。新発田高校などで教壇に立つとともに、新潟県史や自治体史に携わり、近世文芸史を中心として編纂・執筆を行いました。

研究分野は、国書・漢学・歴史・芸術にわたり、それを支えたのがこの蔵書です。

自分の研究の出発点为新発田藩学資料であつたことから、この蔵書を使って調べてもらいたいとして寄贈されたものです。

書架 5・6

### 三扶文庫

別置記号 Zハ

三扶哲夫氏は、曾祖父の創業した出雲屋印刷所(のち三扶印刷所)を継承しました。

祖父の誠五郎氏は、戦前、新発田郷土研究社を設立し、特に新発田藩政史の研究に没頭され、数々の著作物・藩政文書の復刻や翻刻をされました。

哲夫氏は、稀少価値を持った誠五郎氏の著作を復刻し、多くの市民に新発田の歴史を学ぶことのできる資料を提供しました。哲夫氏の寄贈書籍は、芸術と芸能関係が多く、写楽の研究を志したことから浮世絵関係の書籍が特色となっており、多くのひとびとから役立ててもらいたいとして寄贈されたものです。

書架 8・9

### 新発田町立図書館 【館内閲覧】

昭和4年(1929)4月14日、坪川洵平氏の篤志により新発田町立図書館が開館しました。

これを機として「新発田町教育会経営新発田図書館」、「渡邊文庫」、「義士文庫(現在は堀部安兵衛文庫の一部)」、「丹羽文庫」、町小学校同窓会の蔵書、旧藩家老溝口伊織の藩政資料などの寄贈がありました。

昭和22年(1947)、蔵書はすべて市立図書館に引き継がれました。

### 新発田町教育会経営新発田図書館 【館内閲覧】

大正11年(1922)、新発田町教育会は、新発田図書館を開館しました。

昭和3年(1928)、新発田町教育会が、すべての蔵書を開館を控えた町立図書館に寄贈したものです。

こうよ

### 公餘文庫 【館内閲覧】

明治42、3年(1909～1910)頃、北蒲原郡役所の所員が、公務の餘(余)暇(「公餘」)に修養にはげようと文庫を設立し、大正15年(1926)の郡役所廃止にともない、教育会経営新発田図書館に寄贈された資料です。

ほへいだいじゅうろくれんたい

### 歩兵第十六聯隊文庫 【館内閲覧】

明治17年(1884)から昭和20年(1945)まで、旧新発田城内に存続した歩兵第十六聯隊が所蔵していた資料のうち、敗戦後に廃棄された本をもらい受けて、町立図書館の蔵書としたものです。

こやなぎまきえ

書架 23

## 小柳牧衛文庫 【館内閲覧】

この文庫は、昭和 60 年(1985)に寄贈された小柳牧衛氏の旧蔵書です。戦前戦後の長きに渡り、政界で活躍された小柳氏の蔵書は、貴重な資料群を形成しています。

### ■小柳牧衛【明治 19 年(1886)-昭和 56 年(1981)】

川東生まれ。旧制の新発田中学校・第一高等学校・東京帝国大学法科を卒業した後、内務省(当時)に入省しました。青森・福島・長崎・兵庫の県知事を歴任し、新潟市長にも就任しました。戦前に衆議院議員を三期、戦後に参議院議員を三期勤め、通算すると国会議員生活は 23 年にも及んでいます。

ほりべやすべえ

書架 24.27.28

## 堀部安兵衛文庫 【館内閲覧】

新発田市内の建設会社社長である小林政爾氏が、昭和 62 年(1987)以来、毎年 100 万円ずつ、10 年間にわたって計 1,000 万円を寄付して下さった資金をもとに調えたものです。

このコレクションは、赤穂義士討ち入り事件全体を包括しており、「義士文庫」の体をなしていますが、郷土の義士安兵衛を顕彰することから、平成 9 年(1997)から「堀部安兵衛文庫」として公開しています。

この寄付金による収集品を核として、その後発行された図書・雑誌・CD・古書籍など、図書館での購入や寄贈を受けたものも含めて、年々増加しています。

書架 15・16・17

## 歴史図書館一般蔵書

昭和 22 年(1947)1 月、市制施行に伴い、「新発田市立図書館」となって以降の所蔵資料です。おもに、歴史や人物に関連した資料を中心としており、分野別に配架しています。

書架 22 新発田市を除く、新潟県の郷土資料 別置記号 K / KK

書架 24 現在の新発田市及び新発田藩の資料 別置記号 KS/KG

書架 25 調べ物/辞書・辞典 別置記号 R  【館内閲覧】

書架 5 国立歴史民俗博物館研究報告書

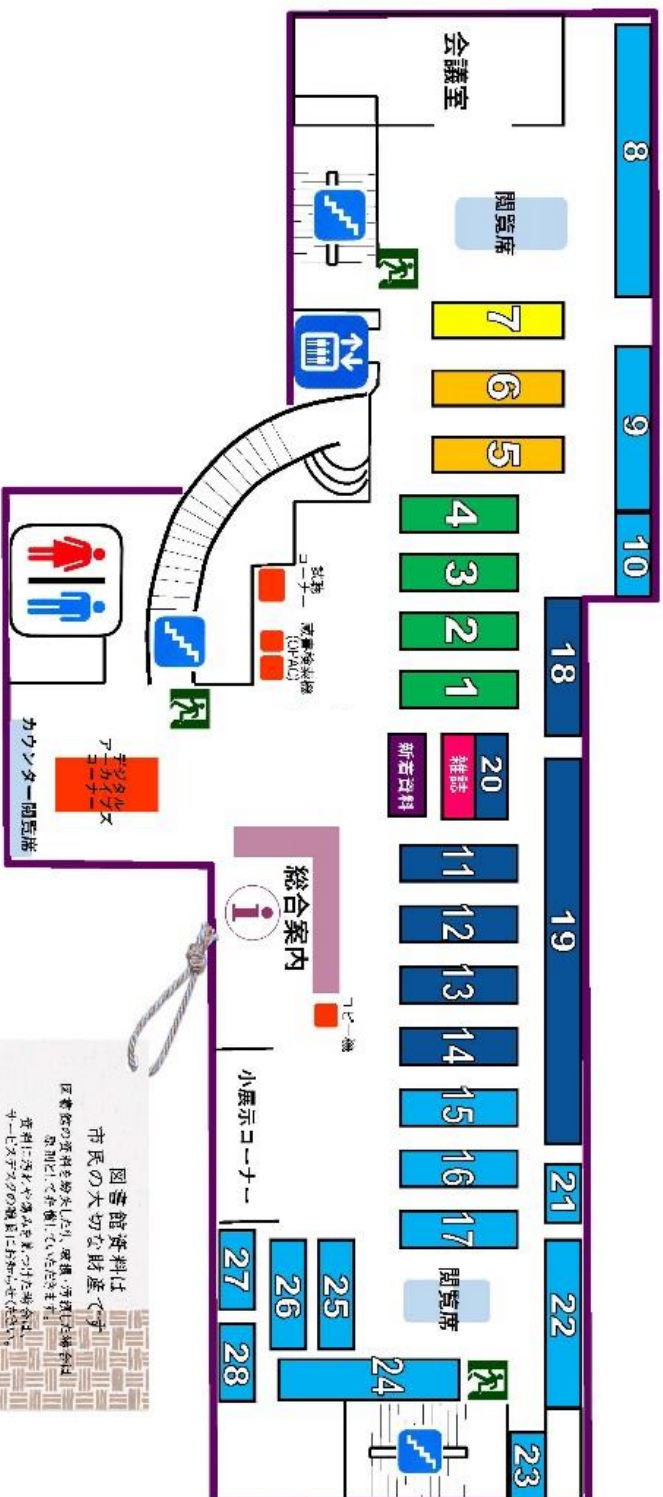
県内で第 1 集から最新刊まで全て揃えて公開しているのは、当館と新潟大学・上越教育大学のみで、大変貴重な書籍です。

書架 7 視聴覚【DVD・CD・レコード】資料 別置記号 C/D/R

CD、DVD、レコードなどの視聴覚資料です。レコードは館内でヘッドホンによる試聴もできます。主に 1960 年代から 1970 年代のレコード全盛期の頃の資料であり幅広いジャンルが揃っています。

貸出し可能です(中央図書館と合わせてひとり 5 点まで)。

# 図書館フロア 配架案内図



図書館資料は市民の大切な財産です。図書館の資料を紛失したり、破損・汚損した場合は、原則として弁償していただきます。資料に傷みや異変が認められた場合は、すぐにスタッフの教員にお知らせください。

関文庫	
1	考古学/総記・関連分野・関連科学・時代別
2	考古学/学会・研究雑誌(全国・地方)
3	考古学(新潟県)/新潟県外の発掘調査報告書
4	新潟県内の発掘調査報告書/新書・文庫・その他
5	国立歴史民俗博物館研究報告書
5	一般書・芸術・写楽・浮世絵
6	文学・文庫・新書
7	視聴覚資料(DVD・CD・レコード)

帆刈文庫	
11	新潟田および県内の自治体史郷土史
12	県内市町村の自治体史・郷土史/辞書・辞典
13	総記・叢書・全集
14	哲学・宗教/歴史
18	社会科学・芸術・言語
19	文学
20	その他の全集
8/9	町立図書館・公称文庫・教育会・十六聯隊
10	大型資料

歴史図書館	
15	総記・哲学・宗教・歴史
16	伝記・地理・紀行・社会・風俗・民俗・国防・軍事
17	自然科学・医学・業学・技術・工学
22	産業・芸術・スポーツ・娯楽・言語・文学
22	新潟県の郷土資料
23	小柳牧衛文庫
24	新潟田の郷土資料/堀部安兵衛文庫
25	調べ物/辞書・辞典
27/28	堀部安兵衛文庫